

# 福島第一原子力発電所の状況

2016年5月6日  
東京電力ホールディングス株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/6 11:00 時点)

| 号機  | 注水状況      |                                | 原子炉压力容器<br>下部温度 | 原子炉格納容器<br>圧力 | 原子炉格納容器<br>水素濃度 |
|-----|-----------|--------------------------------|-----------------|---------------|-----------------|
| 1号機 | 淡水<br>注入中 | 給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h    | 18.0            | 0.54 kPa g    | A系： 0.00 vol %  |
|     |           | 炉心スプレ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h |                 |               | B系： 0.00 vol %  |
| 2号機 | 淡水<br>注入中 | 給水系：約 1.8 m <sup>3</sup> /h    | 23.5            | 3.58 kPa g    | A系： 0.04 vol %  |
|     |           | 炉心スプレ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h |                 |               | B系： 0.04 vol %  |
| 3号機 | 淡水<br>注入中 | 給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h    | 20.6            | 0.28 kPa g    | A系： 0.06 vol %  |
|     |           | 炉心スプレ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h |                 |               | B系： 0.05 vol %  |

## < 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (5/6 11:00 時点)

| 号機  | 冷却方法     | 冷却状況 | SFP 水温度 |
|-----|----------|------|---------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 20.9    |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 17.8    |
| 3号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 17.1    |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 17.1    |

各号機 SFP および原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/6 11:00 時点)

| 設備       | セシウム<br>吸着装置      | 第二セシウム<br>吸着装置<br>(サリー) | 淡水化装置<br>(逆浸透膜)  | 淡水化装置<br>(蒸発濃縮)  | 多核種<br>除去設備<br>(ALPS)    | 増設多核種<br>除去設備            | 高性能多<br>核種<br>除去設備       |
|----------|-------------------|-------------------------|------------------|------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 運転<br>状況 | 停止中 <sup>*1</sup> | 運転中 <sup>*1</sup>       | 水バランスを<br>みて断続運転 | 水バランスを<br>みて断続運転 | ホット<br>試験中 <sup>*2</sup> | ホット<br>試験中 <sup>*2</sup> | ホット<br>試験中 <sup>*2</sup> |

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 \*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 4. その他 >

- ・2014/6/2 ~ 陸側遮水壁工事を開始。  
2016/2/9 陸側遮水壁の凍結に必要となる工事が完了。  
2016/3/31 11:20 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階)を開始。凍結運転は、建屋内滞留水と建屋周辺の地下水位が逆転するリスクを低減するため、三段階に分けて実施する計画であり、第一段階では、1~4号機の海側全面と山側の一部を凍結することで進めて行く。
- ・2015/5/27 ~ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- ・2015/5/4 10:45 頃、構内北側の伐採木エリア南側資機材置き場付近に置いてあるドラム缶周辺で、地面に油が浮いていることを当社社員が発見。現場確認の結果、ドラム缶下部に油溜まりがあり、地面に広がっているものの、確認時点でドラム缶からの漏れいはなかった。漏れいした油の範囲は約3m×約12m。当該箇所付近に排水路はないことから、海洋への流出はないと考えている。地面に漏れいした油については、11:45に吸着マットによる回収を行い、14:50に中和剤による処理を実施。16:50に浪江消防署により「危険物の漏れい事象」と判断された。油が漏れいした原因について現場状況および関係者への確認を行った結果、連休前に現場作業で使用した重機(バックホウ)を資機材置き場に移動した際、バックホウのバケット部分が接触してドラム缶が倒れ、隣にあった資機材とぶつかり傷ついたことにより、ドラム缶内に入っていた油が漏れいしたものと推定している。

その後、ドラム缶内に入っていた油の種類について調査したところ、油ではなく舗装工事に使用する乳剤であることを確認したことから、5/6 に浪江消防署に説明し、漏えいしたものは、危険物の対象にはあたらないことが確認された。

#### **【1号機原子炉建屋カバー解体作業】**

- ・2015/5/15 6:45 ~ 5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。
- 7/17 7:06 ~ 7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。
- 7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5 に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

#### **【サブドレン他水処理施設の状況】**

- ・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。  
9/17 ~ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から 24 時間連続運転に切り替え。
- ・サブドレン他水処理施設について、一時貯水タンクBの分析結果[採取日 4/27]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、5/4 9:51 ~ 16:28 排水を実施。排水量は 963m<sup>3</sup>。
- ・サブドレン他水処理施設について、一時貯水タンクCの分析結果[採取日 4/28]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、5/5 10:03 ~ 16:01 排水を実施。排水量は 866 m<sup>3</sup>。
- ・サブドレン他水処理施設について、一時貯水タンクDの分析結果[採取日 4/30]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、5/7 排水予定。

#### **【地下水バイパスの状況】**

- ・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンクグループ 2 の分析結果[採取日 4/20]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、5/3 10:02 ~ 16:22 海洋へ排水を実施。排水量は 1,581 m<sup>3</sup>。

#### **【1 ~ 3号機放水路の状況】**

1 ~ 3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

##### **<最新のサンプリング実績>**

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### **【H4、H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】**

##### **<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>**

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### **【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】**

##### **<地下水観測孔・海水サンプリング実績>**

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### **【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

- ・3/1 に採取した地下貯水槽 No.1周辺の観測孔 A11 ~ 17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能が ND(ND 値 22Bq/L)であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、NDだったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

##### **<最新のサンプリング実績>**

- 5/2 ~ 5/5 採取分について、前回値と比較して有意な変動は確認されていない。なお、過去の変動範囲内で全ベータ上昇傾向が確認された地下貯水槽 北東側の漏えい検知孔水、およびその他の分析結果についても、5/2 ~ 5/5 採取分について、前回値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽観測孔について監視を強化するとともに、全ベータ放射能が上昇した原因を調査していく。

以上